

令和7年度 学校努力点について

1 テーマ

「自分のよさ、友達のよさ、見付けて認めて、みんなでチャレンジ！」

2 テーマ設定の理由

昨年度、本校では「自分で選び、自分で決めて、みんなで考えを深めよう」をテーマに、研究を推進した。「自律して学び続ける子ども中心の学び」を支えるための学級経営、学年経営における子どもの心理的安全性を高める常時活動を軸としながら授業改善を進めた。また、教育センター研究における「社会情動的スキルチャート」を活用して実態把握を行い、子どもの実態に合った協働のあり方を探った。このように学習だけでなく、学年や学級で育てたい児童像をイメージしながら取り組みを進めたことで、子どもたちの心理的安全性が高まり、様々な場面でゆるやかな協働性が見られた。

また、今年度からキャリア教育が本格的にスタートする。キャリア教育とは「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」のことである。児童の発達段階に応じてキャリア教育を行うことで「生きる力」を身に付け、社会の激しい変化に流されることなく、それぞれが直面するであろう課題に対して柔軟に対応し自立していくことができるようにする教育が強く求められている。キャリア発達に関わる諸能力は、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4領域に分類される。これらは日頃の学級経営や学習活動でこれまでも行われてきたことであり、それを価値付けして子どもたちのいくことで社会人として自立した人を育てていくことにつながると考える。

令和7年度は、キャリア教育と関連させながら教育活動を行うことで、「自分の個性」「友達の個性」を知り、認め合える児童を育てたいと考え、学校努力点研究テーマを「自分のよさ、友達のよさ、見付けて認めて、みんなでチャレンジ！」とした。他者の個性を理解するには、まず自分の個性を知る必要がある。その個性を認め合うことで、安心してチャレンジできる学級・学年になると考える。学年や学級で育てたい児童像をイメージし、そこに到達するためにどのような手立てを講じるか学年で検討し、実践することで子どもたちのキャリア発達を促すことにつながると考える。昨年度の係活動やペア活動、ゆるやかな協働性を生むための手立てを生かすと共に、子どもたちが自分たちで考え新しいチャレンジの場にもなっていくことが望ましい。

また、授業実践以外に、係活動・話し合い活動・ペア活動・笠寺っ子まつり等の取り組み

があったものの、学級や学年の中でとどまっていたものもある。そのような成果を教員同士で伝え合い、共有することで、教員一人一人の選択の幅が広がると共に、子どもたちの実態に合わせてさらに良い工夫を凝らしていけると考える。特別活動だけでなく、各教科を始め、道徳、生活科、総合的な学習の時間など、目の前の児童に応じた取り組みを選択できるようにしたい。

3 研究の進め方

(1) 推進について

学年部会、低・中・高学年部会、推進委員会、全体会を適宜開き、計画・実践・反省などの情報交換や検討の場とする。

(2) 研究授業について

① 努力点全体会後、各学年で育てたい児童像を検討する。

② 全学級1実践を行う。

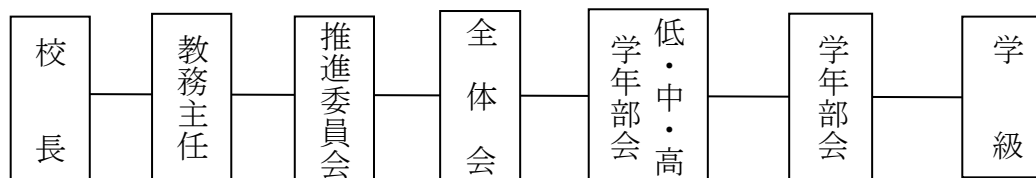
※ 実践教科は、指定しない。また、特別活動として行事等の計画等で行ってもよい。

※ 中間報告会までに、各学年1人実践を行う。1月末までに、各学年1人実践を行う。3学級の学年は、1月末までに、3人目の実践が終わるように計画する。

※ 授業案を作成し、教職員全員に配布する。(決済は回さなくてよい)

※ 学年部会で事前検討会を、参観者で事後検討会を開くことを原則とする。

4 研究組織



(1) 教務主任

- ・ 研究授業計画、授業案について検討する。
- ・ 今年度の成果と課題の報告、来年度の努力点について検討する。

(2) 推進委員会

- ・ 研究授業計画、授業案について検討する。

(3) 全体会

- ・ 中間報告、後期報告を行う。

(3) 低・中・高学年部会

- ・ 学年で1実践は公開授業とし、低・中・高学年部会内で参観する。
- ・ まっかぜ学級は3学級あるため、低・中・高学年部会に分かれて入る。

(4) 学年部会

- ・ 段階に応じたキャリア発達の目標を設定する。手立てや教材を検討する。
- ・ 公開授業者を決定する。
- ・ 教材研究や指導案の作成・研究授業を実施する。

(5) 学級

- ・ 実践を行う。

5 年間計画

4 月	努力点推進委員会	努力点研究推進について検討
5 月	努力点全体会	努力点研究・部会運営について提案 育てたい児童像の検討 実践の日程検討
5 月～9 月	授業実践	学年研究会を適宜努力点部会とし、授業案を部会で検討
1 0 月	努力点中間報告会	前期実践の報告
1 0 月～1 月	授業実践	学年研究会を適宜努力点部会とし、授業案を部会で検討
2 月	努力点最終報告会	後期実践・まとめについて報告
2 月	努力点推進委員会	次年度の努力点研究推進について検討
3 月	職員会議	次年度の努力点研究について提案

6 本年度の推進計画

月 日	会 議	内 容
4 / 16 (水) までに		○ 推進委員の決定
4 / 21 (月)	推進委員会①	○ 「全体計画」「授業案の書き方」について【提案】
5 / 1 (木)	全体会	○ 全職員による共通理解
5 ～ 7 月		○ 授業者の依頼と学年内での調整 ○ 前期授業実践（事前検討・事後検討）
8 ～ 9 月		○ 1 学期の実践の振り返り ※ 成果・課題・修正点と今後の計画
10 / 20 (月)	全体会	○ 中間報告会
10 ～ 1 月		○ 後期授業実践（事前検討・事後検討）
2 / 9 (月)	全体会	○ 努力点最終報告会 ※ 本年度反省
2 / 19 (木)	推進委員②	○ 本年度の反省を踏まえた次年度に向けての内容検討
3 / 5 (木)	全体会	○ 次年度に向けての具体的な内容の検討